

【七月の言葉（平成二十八年）】

人のやさしさも仏の慈悲も眼に見えない。
ない。

身に感じるのです

人間の情は見えません。眼に見えないが、その人の温もりや優しさを身に感じます。その人といると落ち着きます。

同じように仏さまの慈悲も見えません。眼に見えませんが、いつでもどこでもどんな時でも私を支え、決して見捨てないというお慈悲が身に伝わってくると大きな喜びです。安心です。生きる支えになります。

我執や煩惱はなくなりません。

私の心が良くなって救われるのではありません。

どうにもならない我執や煩惱をもったまま仏さまにまかせるのです。

自力ではどうにもならない私たちの生死の問題をまかせるものに遇えたということが、本当に助かったということ。仏さまのお慈悲をわが身に感じてください。